



平成25年7月18日  
内閣府沖縄総合事務局

## 「那覇まちま〜い」の経済効果等について

問い合わせ先  
内閣府沖縄総合事務局  
総務部 調査企画課  
担当者：太田、宇座  
TEL：098-866-0047  
FAX：098-860-1025





平成 25 年 7 月  
内閣府沖縄総合事務局

## 「那覇まぢま〜い」の経済効果等について

### 要旨

- ・平成 24 年度における「那覇まぢま〜い」による経済効果は、34. 2 百万円と推計された。
- ・「那覇まぢま〜い」の雑誌等への広告効果は、少なくとも 57 百万円と推計された。
- ・平成 24 年度の「那覇まぢま〜い」の参加者数は、前年度を 12. 3% 上回る 6885 人となった。
- ・県外から「那覇まぢま〜い」に参加した参加者の平均滞在日数は 4.30 日、旅行計画時に「那覇まぢま〜い」を組み込んだ参加者の平均滞在日数は 4.86 日となっており、「那覇まぢま〜い」は滞在日数の長期化につながる取り組みであると思料される。
- ・「那覇まぢま〜い」参加が、飲食や土産品購入の消費行動を喚起する傾向がみられた。
- ・このようなことから、「那覇まぢま〜い」が沖縄観光の高付加価値化に一定の効果があるものと認定される。
- ・今後、県外における PR 等により、旅行計画時点において「那覇まぢま〜い」参加を組み込むことができれば、平均滞在日数の延長等の効果が見込まれるものと思料される。また、各地の観光協会等によるまぢま〜いの全県化の動きもあることから、こうした動きをサポートしていくことも沖縄観光の高付加価値化には必要であると思料される。

### 1. 那覇まぢま〜いの概要

「那覇まぢま〜い」とは、那覇市観光協会が企画している地元ガイドと那覇のまちを歩いて、今までとは違う角度から那覇を観て楽しんで頂こうというまち歩き企画で、多くの方に那覇の魅力に気づいていただき、地域の活性化を図ろうとする取り組みである。訪問客に地元の魅力をあますところなく伝えようと、これまでにない新しいまち歩きコースを策定し、平成 22 年 12 月に設定コース 15 本でスタートした。その後、テーマ、ターゲット別に設定コースを増やしていき、琉球文化に触れるコースや街の魅力に触れるコース、沖縄を感じるコースなど多様なコース策定により、平成 23 年度末 27 本、平成 24 年度末には 36 本のコースが設定されている。

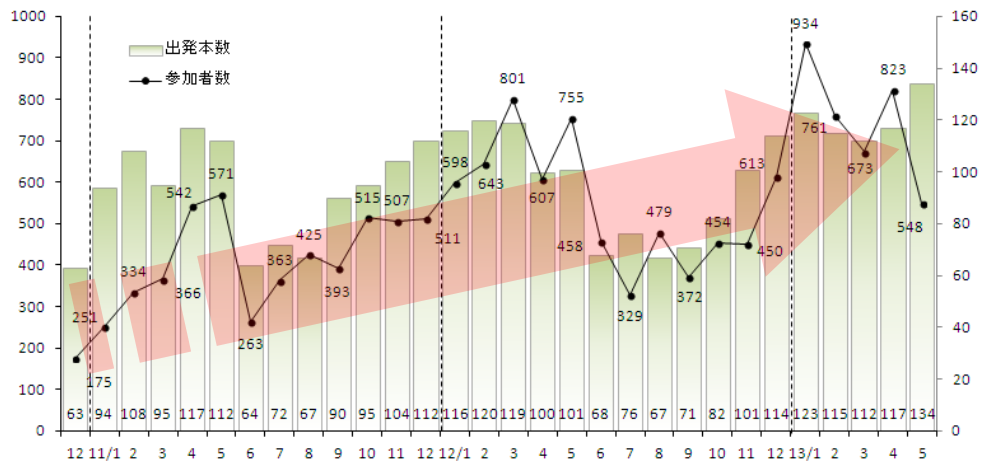
夏場（6～9 月）は熱中症に配慮する観点から、まぢま〜いの設定本数を減らしているものの、それ以外の月はほぼ 100 本以上の出発本数設定がなされている。

これに伴い、参加者数も平成 22 年度（4 ヶ月間）1126 人、平成 23 年度

6132人、平成24年度6885人と順調に伸びてきている。(図表1)

参加者の約34% (平成24年度) が県内客となっていることから分かる通り、県民にとっても身近なレジャーの一つとなっているものと推測される。

(図表1)



## 2. アンケート結果の概要

### (1) アンケートの概要

- ① 調査期間 平成25年4月27日～5月12日
- ② 調査対象 期間中の「那覇まちま〜い」参加者  
標本数404人、有効回答数106件、回収率26.2%
- ③ 経済効果調査 「那覇まちま〜い」ガイドへのアンケート  
出発本数70本、回収コース数17本、回収率24.3%

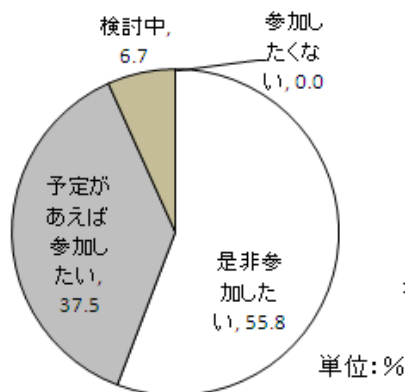
なお、実際の調査は、那覇市観光協会のご協力のもと、おきぎん経済研究所に委託して実施。

### (2) アンケート結果

#### ① 次回以降の参加意向

参加者の過半数(55.8%)が、次回以降も「是非参加したい」と回答しており、満足度が高く、「那覇まちま〜い」が魅力的なコンテンツとなっている。

(図表2)

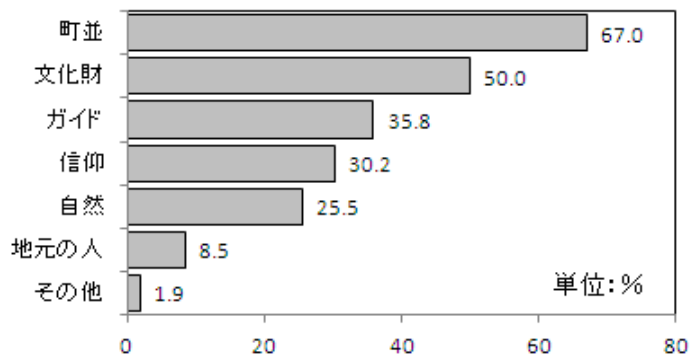


② コースで印象に残ったもの

コースで印象に残ったものを聞いたところ、「町並」が67.0%で最も高く、次いで「文化財」(50.0%)、ガイド(35.8%)、信仰(30.2%)、自然(25.5%)などとなっている。地元ガイドに対する評価も高く、ガイドがまちまーいの魅力向上に一役かっているものと思われる。

県内客にとっても「那覇まちま〜い」は、自分たちの街の歴史・文化等に対する認識を新たなものにする機会になっており、街への愛着心や郷土愛を育む場となっているものと思われる。

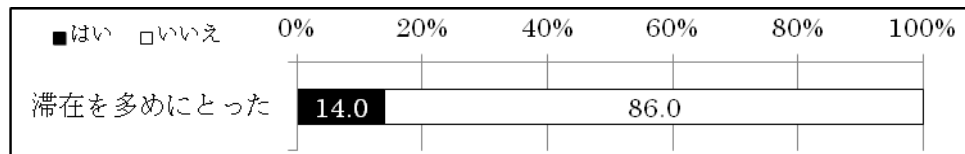
(図表 3)



③ 沖縄旅行日数

県外からの参加者に「那覇まちま〜い」に参加するために滞在日数・滞在時間を多めにとったかどうかを聞いたところ、14%の方が「はい」と回答した。この方々は、沖縄旅行計画時に「那覇まちま〜い」を旅行プランに組み込んだものと思われる。彼らの平均滞在日数は4.86日（県外参加のアンケート全回答者の平均滞在日数は4.30日）となっており、沖縄県がまとめた平成24年度の日本人観光客の平均滞在日数3.75日を1.11日上回っている。母数が少ないことから、断定的なことは言えないものの、「那覇まちま〜い」が平均滞在日数の長期化につながっている側面もみてとれる結果となっている。

(図表 4)

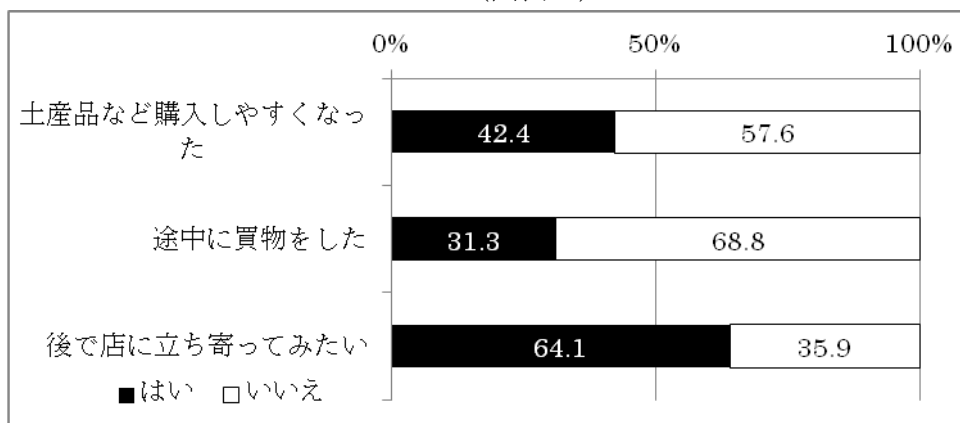


④ 消費刺激効果

「那覇まちま〜い」に参加することでお土産品など沖縄の思い出の品が購入しやすくなったかどうか聞いたところ、42.4%の方が「はい」

と回答している。また、ガイド中に見かけた店でお菓子や飲み物などの買物をしたかどうか聞いたところ、31.3%の方が「はい」と回答したほか、後で立ち寄ってみたいと回答した方が64.1%にのぼっており、ガイドの説明などを通して、土産品などの商品に対する理解が深まり、購買意欲を喚起していることが推測された。

(図表 5)



⑤ 経済効果

「那覇まちま〜い」ガイドの協力により、飲食費や土産品の支出額について調査を行った。

その結果、「那覇まちま〜い」参加者一人当たり消費支出額は2,048円となった。平成24年度の「那覇まちま〜い」の参加者は6885人であったことから、消費効果を推計すると、直接効果が約14.1百万円、間接効果が約8.3百万円、合計約22.4百万円であった。

これに、参加料（1人おおよそ千円）の経済効果も加えた「那覇まちま〜い」全体の経済効果は、直接効果で約20.7百万円、間接効果で約13.5百万円、合計約34.2百万円であった。

図表 6 「那覇まちま〜い」による飲食費・土産品支出の経済効果

単位: 百万円

	直接効果	間接効果	間接効果		総効果
			1次間接	2次間接	
生産誘発額	14.1	8.3	3.4	4.8	22.4
うち粗付加価値誘発額	7.0	4.3	1.6	2.7	11.3
うち雇用者所得誘発額	3.7	1.8	0.7	1.1	5.4

図表 7 「那覇まちま〜い」事業収入の経済効果

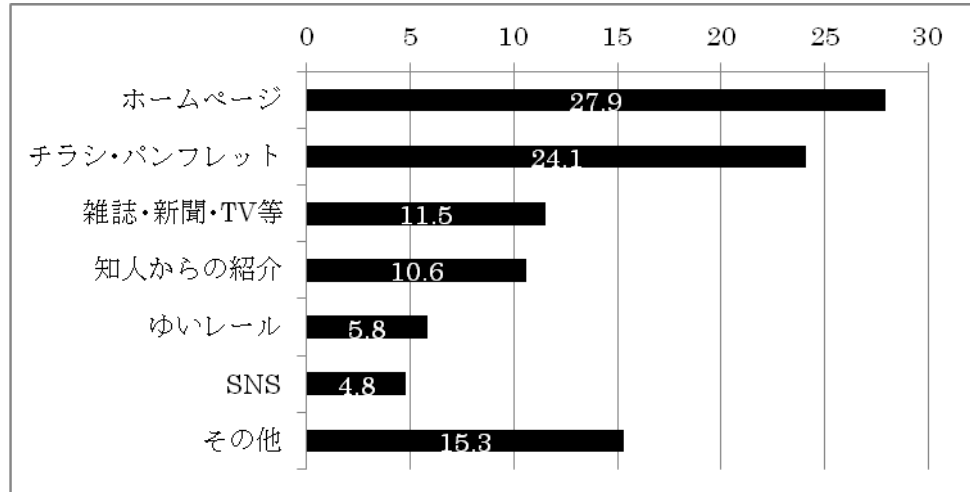
単位: 百万円

	直接効果	間接効果	間接効果		総効果
			1次間接	2次間接	
生産誘発額	6.6	5.2	1.9	3.3	11.9
うち粗付加価値誘発額	4.5	3.2	1.1	2.0	7.6
うち雇用者所得誘発額	3.7	1.3	0.6	0.8	5.0

⑥ 広告効果

「那覇まぢま〜い」をどのようにして知ったか（複数回答）を聞いたところ、「ホームページ」が最も多く、次いで「チラシ・パンフレット」、「雑誌・新聞・TV等」の順となっている。

（図表 7）



「那覇まぢま〜い」は、県内外の多くのメディアが取り上げ、県内外で広く紹介されている。平成 24 年度は、「沖縄・離島情報」など 10 誌が特集などで取り上げたほか、テレビニュースでも放映されるなど、その宣伝効果も大きなものとなっている。昨年度、メディアで取り上げられた「那覇まぢま〜い」の特集などについて、仮に広告を出したと仮定した場合に要する経費を概算で試算すると少なくとも 57 百万円と見積もられる。

メディアが取り上げたことにより、認知度の向上やまぢま〜いのブランド化が図られていると思われるほか、図表 7 のとおり、実際の集客でも高い効果が見られている。

各雑誌で取り上げられた「那覇まぢま〜い」=那覇市観光協会提供



### 3. まとめ

以上のことから、「那覇まちま〜い」は、沖縄観光が抱える課題である「平均滞在期間の長期化」や「観光消費額の増加」につながり、沖縄観光の魅力向上、高付加価値化につながる取組であると思われる。とりわけ、沖縄旅行計画時に「那覇まちま〜い」を旅行プランに組み込んでもらうことができれば、平均滞在日数の長期化と観光消費額の増加につながることを期待される。

今後は、旅行計画立案時に「那覇まちま〜い」をプランに組み込んでもらうため、県外での広報・宣伝活動等の強化のほか、より一層消費を喚起させる、例えば食や沖縄の文化・芸能等を観賞するコースの設定、さらに満足度を高めるための取組（ガイド育成等）などが求められる。

また、現在、沖縄まちま〜い協議会が発足し「那覇まちま〜い」の取組の全県化に向けた取組が始まっているが、こうした取組の推進により、沖縄観光の高付加価値化やブランド化の促進が期待される。

「那覇まちま〜い」の参加者の約34%が地元の人であるという結果からも分かるとおり、地元の人が自分たちの街や文化などを見直すきっかけとなり、それが地元への愛着心や郷土愛を育てていることもうかがい知ることができる。沖縄に住んでいる方々が、地域に愛着を持って一人一人が街の魅力、沖縄の魅力を語れることができれば、沖縄観光の持続的な発展にもつながるものと思われる。

(表紙の、沖縄ミニ経済レポートのマスコットキャラクターは、山城侑衣さん(那覇市)の作品です。)